

平成 29 年 12 月 11 日
株式会社シーエス・ワンテン
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社

ディズニージュニア 番組審議会議事録

- ・日時 平成 29 年 12 月 11 日(月)14:00～
- ・場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社 27 階会議室
- ・出席者 審議委員総数 7 名
出席審議委員数 5 名

(出席委員名)

- 委員 木下 美子 (元青山学院初等部英語教諭)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・有限会社タイムリーオフィス代表)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 前田 耕作 (生涯教育新聞社代表)
- 委員 山田 顕喜 (日本大学芸術学部映画学科講師)

(欠席委員名)

- 委員 加藤 諦三 (早稲田大学理工学部名誉教授)
- 委員 戸田 奈津子 (映画字幕翻訳家・通訳)

(衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン)

- 福田 泉 (代表取締役社長)
- 渡辺 慎一 (業務推進本部 業務推進本部長)
- 谷 俊之 (編成局長)

(番組供給事業者：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社)

- 小林 信一 (代表取締役社長)
- 藤 慶英 (メディア戦略 シニアマネージャー)
- アイリーン・ハンベルガー (編成 ディレクター)
- 竹内 文吾 (編成 マネージャー)
- 待鳥 雅之 (編成 アシスタント・マネージャー)

- ・議題
 - (1) ディズニージュニアの放送免許取得申請について
 - (2) ディズニージュニアの番組編成について
 - (3) 審議番組「パグ・パグ・アドベンチャー」について

・議事内容

(以下、* : 委員からの意見・質問、→ : ディズニーの説明・回答)

(1) ディズニージュニアの放送免許取得申請について

→現在、ディズニージュニアは東経 110 度 CS デジタル放送において標準画質 (SD) で放送を行っており、これを高画質化 (HD 化) するため、ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社が保有する東経 110 度 CS デジタル放送「ディズニージュニア」の地位を総務省の認可を受けて、株式会社シーエス・ワンテンへ吸収分割の方法で事業継承を行った。事業を承継した株式会社シーエス・ワンテンが 10 月に HD 化申請を行っており、来春に認定を受ければ、秋には HD 化の見込みである。

*ディズニージュニアの視聴者にとっては、HD 化されることにより、視聴方法などに何か変更等はあるのだろうか？

→視聴方法等は今までと全く変わらない。ただ、今までよりさらに良い画質で番組をご視聴頂くことが可能になる。

(2) ディズニージュニアの番組編成について

→未就学児童向けという狭いターゲットでありながら、大手ケーブルプラットフォームでは、子供向けチャンネルの中で、接触率がトップになったこともある。

「ちいさなプリンセス ソフィア」「ドックはおもちゃドクター」は人気の番組。夜の時間帯では、21:00 頃まで高い接触率が得られ、これが 22:00 頃まで続く。

→12 月には「ちいさなプリンセス ソフィア」などでクリスマス特別編成を組んでいる。

また、冬休み用の特別編成も組んでいる。

*20:00 台が一番高いのか？

→17:00 以降から 19:00 台が高くなる。

*保護者たちが料理など作業をする時間帯なので、子供たちに見せたい時間帯なのだろう。

(3) 審議番組「パグ・パグ・アドベンチャー」について

放送概要：

2017 年 11 月 25 日(土)より放送開始。レギュラー枠は土日の 10:00～と 15:00～。

番組内容：

愛らしい2匹の子犬、ビンゴとローリーは、仲良し兄弟。好奇心が旺盛で、ご主人のボブが留守の間、こっそり冒険に繰り出す。大好きなボブのため、困っているペット仲間を救うため、やんちゃな二人は地球の裏側まで出かけていく。予想外のハプニングもなんのその。いつも楽しく二人で力を合わせて乗り切り、任務完了！そして、日が暮れる前には帰宅して、おうちで大好きなボブの帰りを待っているのである。

- *ビンゴが「レイ (lay = 寝転がる)」と言うと、ローリーがおなかをひっくり返して寝転がるシーンがあるが、日本語の「礼＝おじぎする」とは意味がちがうので、これでは行儀が悪いと誤解されてしまう。今は小さい子向けにも英語の教育が始まっているので、英語が台詞に入ってくるのはわかるが、日本語に訳して分かりやすくするほうが良い。
- *部屋を散らかしても、「片づけはロボットがやってくれるからいいんだ」と取られると(無責任で)どうかと思う。
- *誰も叱っていない。理屈ではなく、してはいけないことはダメなのだとはっきり言うべきだとは思う。昔はよく先生から叱られたものだ。アメリカだと叱り過ぎると虐待と取られて入れにくいかもしれないが、日本でも家庭崩壊が問題となってきたが、悪いことは悪いと言う必要はある。
- 色々試して作っているところ、というのもあるが、もう少し上の子供にも受け入れられるようなものとしては、内容が薄くなるかもしれない。
- *これまでのディズニーの作品は、チェックするところがないくらいに、ただ単純に楽しく見ていたが、今は、問題に思えるシーンが出てきたときに、「あれ、いいの?」「どう?」と孫に問いかけて一緒に考えることでコミュニケーションをとるきっかけにもなっているので、これはこれでいいと思う。
- *2～3歳くらいの子に受け入れられるような、単純に語られるテーマもあり、色んな国に行ったり、砂で何かを作ったらそれを何で流されてしまったり…、色々あって力を合わせて努力して砂を持って帰るとするのは良いと思った。この「力を合わせて」という部分は日本らしいと感じる。
ロボットに先にインプットしておかないと、片付けてもらえない、というのも面白い。
- *小さい子たちにとっては、動きがあってコミカルだし、葉っぱが出てきて動いたり、効果音も面白いので、惹きつけられるのでは、と感じた。
- *トイストーリーを思い出した。あれは、子供が捨てたおもちゃが何かするものだったが、この番組の内容は、それと対極にある面白い冒険だと思う。

・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた平成29年12月11日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用

し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：
平成 30 年 2 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上